

icho namiki 岡山大学広報誌 時対並木



OKAYAMA UNIVERSITY

2011.6

No. 61

新学長 森田ビジョンを語る

●特集2 新理事、研究科長・学部長紹介

特別
企画

ノーベル化学賞受賞 根岸 英一 名誉博士が岡山大来訪!!

●卒業生その人に聞く 陰山 英男 さん 立命館大学教育開発推進機構教授
(立命館小学校副校長)

●研究室訪問 今津 勝紀 岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授

●きり岡大生 坪井 遥司 MP コース1年生

●東日本大震災 一被災地支援の現場から…そして今、岡山大にできること—

特集

Special Section

1





新学長、 森田ビジョンを語る。

継承と発展

岡山大学をこの地域における国際的な研究拠点にするという構想を継承した上で、具体化、発展させる。
大学と都市・地域が連繋した新たな「美しい学都」を目指す。

担い手の形成

伝統から学ぶ
真の国際化を目指す

活動の理念

大学人は地域の人々と連携し、地域の人々は世界の人々と連帯する。地域の自立に貢献する大学となるため、
地域の善き頭脳、地域のための優れた人材養成の場となり、知的に高度な地域サービスを提供する。
国際的なリージョナルセンターを持つ大学に押し上げ、そこから真に個性的な、
卓越した大学をつくり上げていく。岡山の地にあってこそ世界から人が集まり、世界に輝く大学に。

キャンパスの創造

美しい、気品あるキャンパスを創成する

大学のガバナンス

岡山大学にふさわしい組織構造と機能の構築
検証と評価
経営力の強化

森田学長って
こんな人！

「人見知りで、ほとんど怒ったこともない。リーダーとしては調整型でしょうね」と自己分析する。中学、高校、大学とテニス部に所属し、「高校、大学時代はとにかくテニスに明け暮れた。女の子に、よくもてましたよ」。最近の息抜きは休日の庭の手入れ。「草むしりをしていると無心になれる。きれいになると達成感があります」と笑う。学長就任後も日本麻酔科学会理事長など学外の実務を兼任。「医師は自分の原点。生涯としての医師であり続けたい」といい、出勤前に岡山大病院へ立ち寄るのを日課にしている。



50年後の岡山大創造

メッセージをなくし、互いに連帯感を抱けるように、キャンパス名を変えてもいいと思う。意識改革になると思う。

—組織機能を発揮するためミドルアツプミドルダウンを掲げるが、具体的にはどういうことか。

これだけの巨大な組織を活性化していくには、学長のリーダーシップや理事の能力だけでは、限界がある。実際のアクティビティは各部署だと思ふ。各部署の長に、いかに責任を持たせられるかだ。部局と執行部がうまく意思疎通してコントロールするのが一番いい方法だと思う。

学長になって驚いたが、学部長の裁量経費はほとんどないに等しい。これでは教育を担う学部が大きな仕事を

—理系と文系を同一に評価するのは難しい。検証と評価のあり方についてはどう考えるか。

評価は目的ではなく、単なる手段。大学は多様な人の集まりで、一律に評価することは不可能だ。だが、そうは言っても部局に裁量権を与える限りは評価がある。理系、文系がある総合大学にふさわしい評価システムに進化させたい。多様性を持ち、期間も柔軟にした新しい評価が必要だろう。

ビジョンに掲げた目標を実現することが岡山大学の魅力創ることとなる。大学づくりも町づくりも5年、10年では成し得ない。50年規模だろう。ビジョンはその第一歩。大学が変わっていくきっかけにしたいと思う。

4月1日、岡山大学の第13代学長に森田潔氏が就き、新体制がスタートした。就任に際して「森田ビジョン」を発表し、大学運営の方向性を明らかにした新学長にビジョンに沿って、決意を聞いた。

1949年12月	倉敷市生まれ
1974年3月	岡山大医学部卒
4月	岡山大医学部附属病院麻酔科 入局
1993年7月	岡山大医学部 助教授
2002年4月	岡山大学院医歯学総合研究科 教授
2005年6月	岡山大医学部・歯学部附属病院長（現・岡山大病院長）
2011年4月	国立大学法人岡山大学学長

—学長の目指す理想の大学像とは、どのようなものか。

ヨーロッパの大学は長い歴史を持ち、都市の中で大きな存在感を示しているが、岡山大学は岡山市、岡山県の中で存在感を示し切れていない。岡山大学も140年以上の歴史を持っている。その歴史と伝統を活かし、地域の中で存在感を示したい。

ある立派な卒業生が岡山大学出身であるということを隠していたと聞いてショックだった。市民や県民のみなさんが自慢に思う大学にしていきたい。

—岡山大学は多くの留学生を受け入れ、若手研究者を海外に派遣している。学長の考える真の国際化した大学とは。

これは森田ビジョンの一つの大きな柱。岡山大学が本当に国際化しているかといえば、まだまだ地方の大学に甘んじていると思っている。岡山の地にある、国際的な大学にしたい。国際

的な大学ランキングも上げたい。数値目標としては世界で250位、国内ではトップ10に入りたい。

そのためにまず、人の動きを活発にする。教授クラスの人を1〜3カ月くらい海外に派遣するようなシステムをつくり、指導者にも動いてもらう。岡山大学に来てもらうためには、こちらから行くことだ。

—森田ビジョンは、地域という言葉がキーワードになっている。地域を大事にすること、国際化というのは相反するイメージがあるが。

私自身も経験から地方の不利は感じている。だが、それを逆手に取って国際化を進めたい。岡山大学は、都市部の真ん中にこれだけ広大なキャンパスを持ち、京阪神へのアクセスもいいという地の利がある。何よりも、岡山大学が岡山にある限り、地域の人たちと私たちが一緒にやることで世界の大学に近づく。それにはやはり、市民のために働くことが大事。地域との

連携組織をつくり、互いに何が必要か、何を求めているかを意見交換し、結びつきを強めていきたい。

—キャンパスの創成について、学長の思い描く美しいキャンパスとは。

大学の本質は教育と研究だが、やはり人に集まってもらおうと思えば、そこに立った時にすがすがしく、気持ちがいいキャンパスであることが必要。そこには、人が存在している、人間味のある美しさも欠かせない。きれいななれば、岡山大学が変わったと目で見えて分かる。キャンパスは市民にもオープンにし、皆さんが誇りに思える大学にするのが私の夢だ。プロのアイデアを聞きながらグラウンドデザインをつくり、キャンパス整備に取り組みたい。構想の段階だが、街中にキャンパスをと考えている。市街地の商店街にでも、学生が気軽に立ち寄り、市民向けの講義をし、大学の情報を発信するような場所をつくりたいと思っている。

新理事紹介

森田ビジョンの実現を
支えるキーパーソン達が
熱き思いを語る。

企画・総務担当理事

Planning and General Affairs

許南浩



ほう・なんほ
専門は細胞生物学。東京大大学院医学系研究科修了。富山医科薬科大医学部教授、岡山大学院医歯薬学総合研究科教授、同大医学部長などを歴任。倉敷市出身。

総務・企画担当には、組織の維持、基本的変革を担う企画、協働の基盤づくりのための連絡・調整と三つの柱がある。教育の本質、特徴をきちんと見極め、現実的で理念に沿った検証・評価制度のあり方も考えたい。大学のあるべき姿を追い求めていくことが大学の存在理由だと思う。

社会貢献・国際担当理事

Social Responsibility and International Affairs

荒木勝



あらき・まさる
専門は西洋政治史。名古屋大学大学院法学研究科博士課程（後期）単位修得退学。岡山大学法学部教授、同大学院社会文化科学研究科長などを歴任。愛知県出身。

地域貢献と国際化は大学の戦略と位置づけている。地域と大学がともに大学づくり、まちづくりに取り組みリージョナルセンターをつくりたいと、検討を進めているところだ。大学の国際化のためには研究者や学生が海外で研究や勉強ができる環境づくりも必要。岡山大を世界的な知性の府にしたい。

財務・施設担当理事

Finance and Facilities

北尾善信



きたお・よしのぶ
岡山大学法学部卒。文部科学省研究振興局振興企画課学術調査官、同省科学技術・学術政策局基盤政策課人材政策企画官などを歴任。京都府出身。

大学が独自色、特徴を出しながら、競争的資金や他の経費を獲得する努力が必要な時代。学生の講義室、課外活動用のほか、今まで以上に他大学の研究者や留学生らが訪れる共同利用の研究・センターの施設整備も進め、よりよい教育・研究を行うための環境整備を支援したい。

教育・研究担当理事

Education and Research

阿部宏史



あべ・ひろふみ
専門は都市・地域計画学。京都大学大学院工学研究科修士課程修了。岡山大学環境理工学部教授、同大学院環境学研究科長などを歴任。徳島市出身。

大学にとってもっとも重要なことは研究成果を教育に還元すること。先端的な研究をする教員が学生に教え、学生はその分野で最新を知る。そういう仕組みづくりをしたい。総合大学としての特色を生かしながら幅広い視点で教育・研究のあり方を考え、学部や研究科の枠を超えた異分野融合型の研究を進めていきたい。

病院担当理事

University Hospital

槇野博史



まきの・ひろふみ
専門は腎・免疫・内分泌代謝内科学。岡山大学医学部卒。同学部教授、同大学院医歯薬学総合研究科長などを歴任。岡山市出身。

地域のために先進医療を提供し、病診連携、病病連携の中で「最後の砦」としての役割を果たしたい。病院で臨床教育研究を行いながらの人材育成も必要だ。私は「アートフル ハートフル」な大学病院を目指している。この言葉には知識、技術、そして心が備わった医療を提供したいという願いを込めている。

研究科長・学部長等紹介

教育学研究科長
教育学部長

加賀 勝（かが・まさる）

▷運動学

社会文化科学研究科長

高橋 文博（たかはし・ふみひろ）

▷倫理学

自然科学研究科長

則次 俊郎（のりつぐ・としろう）

▷ロボット工学

保健学研究科長

岡本 基（おかもと・もと）

▷脳科学

環境学研究科長

吉川 賢（よしかわ・けん）

▷樹木生理生態学

医歯薬学総合研究科長

谷本 光音（たにもと・みつね）

▷血液・腫瘍・呼吸器内科学

法務研究科長

上田 信太郎（うえだ・しんたろう）

▷刑事訴訟法

文学部長

永田 諒一（ながた・りょういち）

▷西洋史学

法学部長

佐野 寛（さの・ひろし）

▷国際私法

経済学部長

清水 耕一（しみず・こういち）

▷経済理論、自動車産業論、労働経済、フランス経済

理学部長

高橋 純夫（たかはし・すみお）

▷生物学

医学部長

吉野 正（よしの・ただし）

▷病理学

歯学部長

松尾 龍二（まつお・りゅうじ）

▷口腔生理学

薬学部長

森山 芳則（もりやま・よしのり）

▷生化学

工学部長

谷口 秀夫（たにぐち・ひでお）

▷情報工学

環境理工学部長

永井 明博（ながい・あきひろ）

▷流域水文学

農学部長

奥田 潔（おくだ・きよし）

▷動物生殖生理学

資源植物科学研究所長

村田 稔（むらた・みのる）

▷植物分子遺伝学

地球物質科学研究センター長

神崎 正美（かんざき・まさみ）

▷鉱物学、地球物質科学



岡山大プロジェクトにエール 「すばらしい研究に」

特別企画

日本中を沸かせた米バデュー大の根岸英一特別教授のノーベル化学賞受賞決定からおおよそ5カ月。一躍、時の人となった根岸氏が3月下旬、受賞後初めて岡山大学を訪れた。

根岸氏が外部評価委員を務める岡山大学のプロジェクト「エネルギー環境新素材拠点」の会議に合わせて来岡。受賞決定前から決まっていたもので、3月22、24日までの3日間、岡山に滞在した。

23日には特別講演会「夢を持ち続けよう」を開催。根岸氏の話に、教職員や学生、一般市民ら約1000人が耳を傾けた。講演会に先立ち、岡山大学は根岸氏に、大学第1号となる「名誉博士」の称号を授与。教育研究への貢献に対し、

感謝の意を伝えた。

24日は理学部であった新素材拠点の研究戦略検討会議に研究アドバイザーを務める斎藤重治・名城大学総合研究所教授、檜山為次郎・中央大学研究開発機構教授とともに出席。参加する自然科学研究科教授の13人による研究計画や成果についてのプレゼンテーションを熱心に聞き入り、取り組みの課題や今後の見通しなど、一人一人に質問を投げかけた。

根岸氏は会議の中で、「本当にすばらしい研究ばかり」と評価した上で、自身が有機物の合成に関し、心掛けているという「Yield（収率）」「Efficiency（効率）」「Selectivity（選択性）」を表す「YES」という方法論を紹介。「YES」という

考え方を言えば、それぞれの研究が一段とすばらしいものになる」とアドバイスした。

新素材拠点のメンバーで、学生時代から根岸氏と交流のある同研究科の西原康師教授は「会議を通じて根岸先生の研究に対する真摯な姿勢を改めて感ずることができた。根岸先生もエネルギーや環境問題を解決する次世代型の有機化学反応の開発に向けた研究構想を持っており、岡山大学の研究と通じるところがある。根岸先生も岡山大学の研究を全面的に応援するとおっしゃっており、いい成果を出したい」と話している。

岡山大学特別講演会

ノーベル化学賞受賞

根岸英一

米バデュー大学特別教授



夢を持ち続けよう!

2011. 3. 23

特別講演会
要旨

よく、どうしたらノーベル賞を取れるか、その確率は聞かれる。ノーベル賞は1901年に始まり、受賞者はおよそ1000人。世界の人口で割ると、確率は1000万分の1。これは宝くじの世界だ。

振り返ってみると中学卒業まで、教室以外で勉強したことがなく、きちんと勉強したのは高校時代だけ。

大学時代には体を壊して留年。その時、人生や自分の将来を真剣に考えた。人生の目的とは幸福、幸せだと思う。幸せは100%つかみたい。幸せには四つの要素があって第1は健康。第2は伴侶。去年、金婚式を迎え、身近にいた2組の金婚カップルと一緒に祝った。非常にハッピーなことだと思う。3番目は、自分の一生涯楽しめ、追求できる職業を見つけること。それは好きと同時によくできることであること。その分野で100分の1、できれば1000分の1になる努力をしてほしい。四つ目は趣味。私はどこでも歌うほど、音楽好き。ジャンルは幅広くクラシック、中世音楽から歌謡曲、演歌まで何でも。あとはスポーツ全般だ。この幸せの考え方は20歳から一貫して変わらない。

さて、大学卒業後、帝人に入った。そこで上司から高分子の化学反応について研究してほしいと言われた。大学に戻って勉強し直そうと思い、授業料を思案していた時に知ったのが留学制度だった。英会話を猛勉強し、試験に通って1960年、米国に渡った。

留学先はペンシルベニア大学。私の研究の基礎はここ

で習った。勉強した甲斐があり、テストはよくできたが、実験室では失敗ばかり。このころから学者志向が高まり始めた。当時、著名な先生方を追いかけてあちこち出向いた。3年間で、多くのノーベル賞受賞者に会い、ひょっとして自分もと考え出した。

留学を終えていったん、帝人に戻り、3年後に退社。66年に博士研究員としてバデュー大学のH・C・ブラウン先生の研究室の門をたたいた。ブラウン先生の下で2年を過ごし、ニューヨーク州のシラキュース大学に移った。インテリな人が多く、今に見てろという気持ちで研究し、ノーベル賞の基となる仕事のほとんどは、ここでの7年間にやったものだ。

最初はホウ素と銅の組み合わせで反応を始めて、銅をニッケルに変えた。それでもうまくいかず、ホウ素をアルミに変えた。するとアルミとニッケルでボーンとうまくいった。76年のことで、私の人生を変えた新発見。この時、ニッケルでできるならパラジウムやプラチナムでできないかと、試したらパラジウムがうまくいった。これがノーベル賞を取ったパラジウム触媒だ。

（ノーベル賞決定の連絡があった）10月5日はぐっすり寝ている朝方、電話が鳴った。あわてて取ったら、スカンジナビアの方言で受賞を伝えられた。半信半疑だったが、祝辞をくれた審査員の中に友人がいて、その声で本物の連絡だと確信した。その日から睡眠時間が極端に減ったが、今日まで非常に楽しく過ごしている。

「百マス計算」で確信

早い成果で子どもは伸びる

アナウンサーにあこがれ

岡山大学は尊敬する先輩が受験して意識していました。受験前の下見では、私は山間地に住んでいたで、当時から国内有数の広さで平地にあるキャンパスがとても魅力的に映りました。

入学後はアナウンサーになりました。だったので放送文化部に入りました。ずっと入り浸って部活が私のホームグラウンドでした。ラジオドラマを作り、アルバイトも放送局でアシスタントディレクターをしていました。放送の仕事にスタッフとして関わることが嬉しく、夢と希望にあふれた日々でした。

念願叶えようと放送局を5ヶ月社受けましたが、当時からアナウンサーは狭き門で残念ながら不合格でした。それ以外の選択肢は考えていなかったで、「アナウンサーになれなかったら、故郷で学校の教師をやる」という親との約束を果たし、教師になりました。

最大の失敗が最大の転機に

小学3年生を担任した時、勉強に向き合おうともしない子どもに居残りや補習をさせました。しかし、その子は勉強ができるようになったところか、ますます嫌いになってしまった。熱心に教えて

いたつもりが、結果的には「自分ではできない子」ということを毎日教え込んでいたのです。取り返しのつかないことをしたことに気付きました。この時、「努力と根性だけではだめ。何か技が必要」と考えたのです。その頃、師匠と呼ぶ先生と出会い、百マス計算を使った指導法を教わりました。

その子が6年生になったとき再び担任することになりました。ここで百マス計算をさせると学習に取り組む態度が明らかに変わったのです。この時、私は「この指導は本物だ」と確信しました。私の最大の失敗が、最大の転機になったわけです。

すぐに成果が出る指導を

「単純なことをさせると単純なことしかできなくなる」と批判を受けることもあります。そんなことはなく、記憶力や瞬間的に判断する能力が高まることを実践から発見しました。子どもを賢くするためには「難しい問題をじっくり考えさせる」ことより、「簡単なことを高速でさせる」ことが最も重要です。

また、「教育は成果が出るまでに時間がかかる」とよく言われますが、子どもは指導すればすぐに伸びます。私は瞬時に成果が出

るような指導を考えます。すぐに成果が出るようになると、子どもたちは努力することに意味があると実感できるのです。

今の日本の教育の過ちは、子どもたちに「とにかく努力しなさい、がんばりなさい」と無責任に言うことです。努力すると伸びることを教えてはじめて、自分が教師であると言えるのです。

夢叶い自分の番組を持つ

現在、学級担任は離れましたが、全国でいろんな教育の実践に触れる機会が増えました。教えに行つたつもりが教えられることも多いです。それがすごく楽しいですね。自分の指導方法は今も絶えず進歩しています。

ラジオ局のパーソナリティーも始めています。30年ほど回り道しましたがようやく夢が叶って自分の番組が持てるようになりました。午前中に小学生を指導して、昼からその内容を大学生に話し、翌日東京に行ってその経験を話す生活をしています。放送文化部時代にやった作業をいま、実際プロとしてやり始めたのです。昔本当にやりたかったことや教師としてやってきたことを展開できるようにって本当に充実しています。

陰山 英男

KAGEYAMA
Hideo

立命館大学教育開発推進機構教授 × 岡山大学法文学部卒
(立命館小学校副校長)

兵庫県朝来町(現朝来市)立山口小学校教師時代から「百マス計算」を活用した反復学習の指導を始める。基礎学力向上に成果を上げ、「陰山メソッド」として脚光を浴びる。

- かげやま ひでお (53歳)
- ▶1958(昭和33)年 兵庫県和田山町(現朝来市)生まれ
 - ▶1980(昭和55)年 岡山大学法文学部卒
 - ▶1981(昭和56)年 兵庫県内で小学校教員に採用
 - ▶2003(平成15)年 尾道市教育委員会の校長公募に応じ、尾道市立土堂小学校長に就任
 - ▶2006(平成18)年 立命館大学教授(立命館小学校副校長)



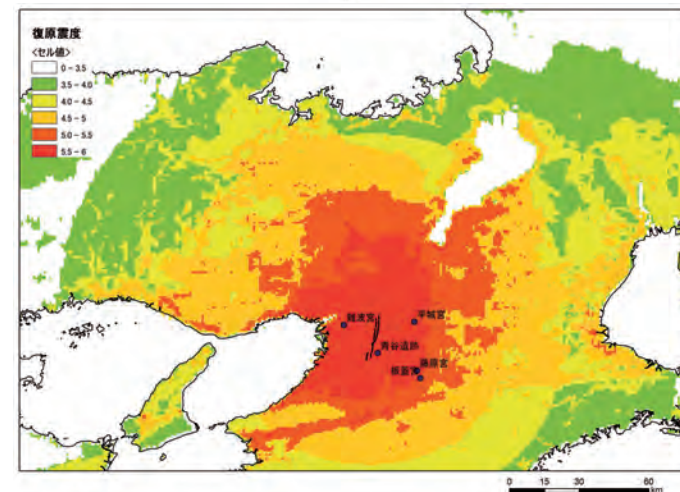
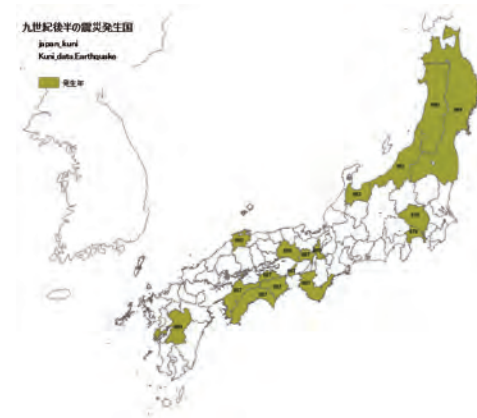
研究室訪問

「高度な知の創成と的確な知の継承」——。岡山大学の理念のもとに教育・研究を展開する個性あふれる教員たち。研究室を訪ねた。

今回紹介するのは、社会文化科学研究科(文)の今津勝紀准教授。日本古代について研究する歴史学の研究者で、近年はコンピューターによる災害史のシミュレーションに力を入れている。東日本大震災の発生から、防災への関心が高まる今、情報科学を駆使した研究を通じ、先人たちから学ぶことの大切さを説く。

文献から地震を復原
古代の災害のコンピューターシミュレーションを始めたのは、約10年前。古代家族の人口変動(人間が生まれてから死ぬまで)を調べる上で、災害の影響は見逃ごせない要素だった。地震や疫病が人間社会にどんな影響を与えるか。これを解き明かす手法として、シミュレーションを取り入れた。それまで歴史学研究において、歴史を復原する大きな根拠は文字史料が

古代の災害を「シミュレーション」歴史から進むべき道を判断



中心。数値化してシミュレーションされることはほとんどなかったという。
そんな中、自然科学研究科(理)の隈元崇准教授とともに取り組んだのが、天平6(734)年に近畿地方を襲った地震や貞観10(868)年に播磨地方で起きた地震の復原だ。まず文献から地域の被害状況を調べ、地震の起こった場所(活断層)や規模を推定。地震波の伝わる経路、地形や表層の地質などさまざまな要因を考慮

し、震度分布のシミュレーション図(図下参照)を作成した。天平6年の地震の規模はマグニチュード7.7と推定され、広い範囲で震度5~6の揺れが起こり、最大震度は7程度と考えられた。

「古代史はアイデア勝負」
資料が残る限り、過去の地震は全て研究の対象。「日本では揺れの大きかった地震についてはかなり記述が残っている。これほど記録によって過去をつか

まえられる国は世界でも珍しい」という。「もった資料があれば、さまざまな分析ができるのにと、思うこともある。でも限られた資料の中で、いかに読み方や発想、見方を変えるか。『古代史はアイデア勝負』とい

い切る。

過去から学び、今に活かす

いにしえの人々が自然災害にどう対処してきたか、過去から学ぶことは多い。「古くから、津波が襲ってきた範囲を外すように道を作り、津波で冠水する場所を避けて集落ができるなど、経験は地域に蓄積されてきた。それなのに、いつの日か忘れ去られ、近代では新しい土地開発、街づくりによってしまっただけの問題として終わらせることなく、今こそ、それぞれの地域で、いっような地震や災害があつたのか学び、どう行動するべきか考えるべきだ」。歴史は現代に生きる者たちの道しるべでもある。「現代社会は大きな転換期。長いスパンで人間の社会がどう変わっていくのか提示することも歴史学を研究する私たちの務め」

今津 勝紀

社会文化科学研究科 准教授

- IMAZU Katsunori (48歳)
- ▶1963(昭和38)年 東京都江戸川区生まれ
 - ▶1986(昭和61)年 岡山大学文学部史学科卒
 - ▶1988(昭和63)年 岡山大学大学院文学研究科修士課程(史学専攻)修了
 - ▶1991(平成3)年 京都大学大学院文学研究科博士後期課程(国史学専攻)研究指導認定退学
 - ▶2007(平成19)年 岡山大学大学院社会文化科学研究科准教授

研究、スポーツ、趣味、特技……
学内外のさまざまな場面で活躍する
岡大生たち。そんなきらりと光る学生を、
同じ学生の目線から紹介する。

坪井遥司

MPコース1年生

TSUBOI YOJI



Matching Program Course

マッチングプログラムコース

学生一人一人の個性や能力を一層伸ばすことを目指して、既成のカリキュラムの枠組みを越えて学部・学科を横断的、主体的に履修プログラム（課題提案型履修プログラム）を作ることにより、各自の学習目的を達成するとともに明確なキャリアデザイン能力を持つ学生を育成するコース。所定の単位を修得した学生は、卒業認定に基づき「学士（学術）」の学位が授与される。

学部にも属さず、一人一人の目標に応じたカリキュラムを履修するマッチングプログラムコース（MPコース）。今年度は16人が入学した。「調味料を開発したい」「運動栄養学を学びたい」「新分野の研究で国際的に活躍したい」「スポーツと両立を」「触媒に興味がある」「音声認知の研究に組みたい」。それぞれの口から飛び出す明確な目標。「サラダボウルみたいでしょ」。彼ら自身がいうように16人はとても個性的だが、どこかまとまりがある。既存の枠にはまらないMPコースは彼らにとって、とても居心地のよい場所のようだ。



一歩一歩、夢に向かって歩み始めたMPコースの1年生。その中でもひととき個性光る坪井遥司さんは、日本スケート連盟のフィギュアスケート強化選手。「オリンピックに挑戦したい」と目を輝かせる坪井さんに、学業とスケートへの思いを聞いた。

フィギュアスケートを本格的に始めたのは、小学5年生のころ。全国的にも設備が良いといわれる岡山国際スケートリンク（岡山市北区）の隣にある小学校に通っていた。「日々、目にするスケートリンクに自然と興味を持つようになった。何かスポーツに打ち込みたいと思ったとき、選んだのがフィギュアだった」と振り返る。

中学時代では毎年、全国大会に出場。高校はスポーツ特化ではなく、公立進学校の県立岡山芳泉高へ進んだ。「スポーツだけでなく勉強も」と

「五輪挑戦したい」 銀盤舞うMPの星

考えたからだ。高校2年生の時
には初めて国際舞台にも立つ
た。

競技を続ける中で、抱いた
将来の夢はフィギュアスケート
のインストラクター。「ただ技
術を教えるだけのインストラク
ターでは面白くない」。リハビ
リ療法を練習に取り入れていた
福岡のあるコーチの姿に、多角

的な視点からアプローチできる
指導者に憧れた。

「大学では医学や教育学など、
指導の役に立つ多様な学問を学
びたい」。そんな時、高校の恩
師に紹介されたのが、岡山大学
MPコースだったという。既存
の枠にとらわれず、自由に学べ
るMPコース。「自分の夢を叶
えられるのは、ここしかない」と
思った。

坪井さんにとってMPコース
は「独立した個の集合体」とい
う。「少人数制のため、横だけ



インタビュー
岡山大学学生広報スタッフ
経済学部経済学科4年
佐野 恭平

MPコースでの
勉強と、帰宅後の
練習で充実した毎
日を過ごす坪井さん。日々の努
力が実を結ぶ日は近いだろう。

練習し、高い成
果を挙げられるよ
うにしている」と
頼もしい。

でなく縦の繋がりも深いことが
魅力」と話す。現在、坪井さん
は解剖生理学、教育学、外国語
を中心に、幅広い分野を履修。
昼間は大学で勉強、帰宅後は練
習のためリンクへ向かう。練習
時間は平日で3〜4時間、休日
でも5時間程度と、国際的に活
躍する選手にしては少ないが、
「だからこそ、短時間で集中し

東日本大震災

被災地支援の現場から… そして今、岡山大にできること

3月11日に発生した東日本大震災は死者・行方不明者合わせて2万人以上という未曾有の被害をもたらした。岡山大学も発生直後から支援物資の提供や、医師派遣などを行い、被災者を支援した。
被災地で活動した医師、学生に現地の様子や思いを振り返ってもらう。



▲石巻市では、泥かきのボランティアを行った（瀬沼さん提供）

鼻をつくにおい、傾いた電柱に垂れ下がった電線…。目の前に広がる田園風景は津波の爪跡を色濃く残していた。「不自然な風景のほずなのに、自然に見えた。とても不思議な感覚でした」。4月30日～5月4日まで、宮城県石巻市でボランティア

活動に励んだ環境理工学部4年瀬沼里沙子さんは振り返る。
瀬沼さんはボランティアを募るバスツアーに一人で参加。お寺や民家の泥をかき出す作業を手伝った。活動は3日間。何層にも重なる油やヘドロをスコップで集め、土のう袋に入れる。「どんな顔で作業して、何て声を掛ければいいのか分からなかった。ぎりぎりまで頑張っている人（被災者）たちに、頑張つてと言えなかった」。

被災地での出会い、活動を通じて、いろいろなことを感じたという瀬沼さん。「五感で感じることでできてよかった。自分が見たこと、感じたことをできるだけたくさんの人に伝えたい」。今後は活動報告会を開いて経験を話したり、被災地への再訪も計画している。

被災地でボランティア活動した学生や教員らによる報告会が6月16日夜、学内であり、体験談を基に、学生ら約50人が今後の支援の在り方を探った。
学生と教職員の有志約10人が中心となり、企画。被災地へ赴いた8人を講師に招き、グループ討論形式で、

話し合った。8人は写真や映像を交えて、現地の様子を紹介。参加者の中には、ボランティアへの参加を予定している学生もあり、「被災地の様子がよく分かった」「積極的に情報収集し、役に立てる人材になりたい」などの声が上がった。



▲活動報告会

県立大船渡病院で診療支援に
当たる岡山大学の医療支援班▼



岡山大学救急医学講座
寺戸 通久

緊急医療援助派遣に参加して

平成23年3月11日発生の東日本大震災に対し、岡山大学病院は3月16日から4月21日まで計12班の医療支援班を岩手県に派遣しました。

私は第7班（4月3日～6日）、第8班（4月6日～9日）の責任者として医療支援に参加しました。この頃になると医療ニーズは急性期外傷ではなく、劣悪な環境下での内因性疾患の発症、持参薬流失による慢性疾患増悪が問題になりつつあり、それを受けて我々は岩手県立大船渡病院救命救急センターでの診療支援に携わりました。医師、看護師は主に救命救急センター支援を行い、薬剤師は集積された支援医薬品の整理、被災者への処方支援に当たりました。歯科医師、衛生士は現地保健師、歯科医師会と協同して避難所巡回診療に当たりました。

大船渡病院は高台にあるため津波からは無事でしたが、近隣医療機関が壊滅状態のため、「最後の砦」として一切、救急依頼を断れない状況を強いられており、病院スタッフの心身の疲労は大変な

ものでした。患者さんは東北人の我慢強さ、遠慮深さのせいか、通常では考えられないほど状態が悪化してからの来院・搬送が多く、治療も及ばず不幸な転帰を辿る方も少なくありませんでした。

診療支援の合間に、被災地現場の視察も行いました。実際に大津波の被災現場に立ったとき、360度ほぼ全て地平線が見渡せるような規模の被災状況を目の当たりにして、私は不覚にも言葉を失いました。見渡す限り地平線まで続く瓦礫に、恐怖すら覚えました。

現在、福島原発事故に関する報道ばかりで、たまに地震津波災害関連が報道されたと思えばお涙頂戴の美談仕立てのもの、行政の不備に怒る被災者の罵声をクローズアップしたものばかりになってしまっています。しかし、多くの被災者は今も黙って耐え続けています。復興は一朝一夕になるものではありません。決して被災地の事を忘れず、今後も様々な形で支援を続けていく必要があると思います。

教職員らでつくる災害支援対策本部は3月18日、鳥取、島根、徳島、鳴門教育、香川、愛媛、高知の7大学から寄せられた食料、飲料水、医薬品などの支援物資をとりまとめ、岡山大学が確保した10トントラックで、東北大学に発送。同大の学生や教職員を通じて被災者に届けた。教職員有志からは多額の義援金も寄せられた。



▲支援物資をトラックに積み込む
岡山大学の職員ら

3 March

16・21日 農学部が高島屋大阪店の「大学は美味しい!!フェア」に出展

20日 沖縄で「卒業生・同窓生フォーラム・アップセミナー」を開催

21日 法学部と台湾・高雄大学法学院が学生交流協定を締結

22日 理学部附属臨海実験所で課外活動所「飛沫(しぶき)荘」の開所式

23日 ノーベル化学賞受賞者の根岸英一氏に「名誉博士」の称号授与。講演会を開催

25日 2010年度学位記等授与式を挙



2010年度学位記等授与式を桃太郎アリーナにて執り行い、学部・研究科等の卒業生・修了生あわせて3391人が新たな一歩を踏み出した。

29日 国際交流会館が完成

海外から訪れた研究者や留学生のための宿泊・交流施設「岡山大学国際交流会館」が完成し、開所式を行った。



津島地区の中央図書館北側に位置し、鉄骨造3階建て・延床面積約2170平方メートル。宿泊棟と交流棟で構成する。宿泊棟には研究者夫婦向け14、単身研究者向け33、単身留学生向け18の居室があり、ベッド、机、椅子、家電製品、インターネット回線を完備。交流棟には会議室、100人収容可能な交流ラウンジを設け、地域の方との交流イベントの場としても活用する。

29日 グッドジョブ支援センター専用の作業室が完成

■

4 April

1日 理学部附属臨海実験所が教育関係共同利用拠点に認定される

8日 2011年度入学式を挙

2011年度入学式が桃太郎アリーナであり、学部・大学院生ら計3590人がそれぞれの目標を胸に新たなスタートを切った。



13日 「岡山大学・フエ大学特別コース」3期生と里親の対面式を開催

19日 定例記者発表を開催

27日 おかやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)が開所

本学と岡山県、産業界が連携してがん治療の研究開発などに取り組む拠点「おかやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)」が鹿田地区に開所した。

OMICは2009年度科学技術振興機構(JST)地域産学官共同研究拠点整備事業として整備を進めていたもので、分子イメージング、インキュベーション、動物実験の3部門で構成。がん細胞や薬剤の動きを生体で傷つけず映し出す「分子イメージング」技術を核に、新医療産業創出を目指す。岡山大病院における臨床研究への橋渡しや、理化学研究所との連携大学院コースを通じた人材育成にも取り組む。



■

5 May

14日 資源植物科学研究所の一般公開を開催

26日 定例記者発表を開催

28日 東日本大震災の被災者を励ます宇宙大の収穫体験イベントを開催

資源植物科学研究所は28日、群馬県太田市で宇宙を旅した大の収穫体験イベントを行い、市内に避難している東日本大震災の被災者らを招待した。

同研究所とサツポロビルが社会貢献の一環として企画。2006年に5力月間、宇宙空間に滞在した大の「子孫」を栽培する同社群馬工場の実験ほ場で、親子ら約100人が刈り取りに挑戦した。収穫後は宇宙大の子孫で作った宇宙茶で乾杯した。



6 June

4日 学長特別補佐の建築家・妹島和世氏と西沢立衛氏が講演。鹿田地区に新ホールを建設する計画を発表



9日 岡山大病院で歯の衛生週間イベントを開催

10日 法科大学院生による無料法律相談スタート(9月2日まで、8月を除く毎週金曜日)

■

臨床成果

■大学院自然科学研究科の沈建仁教授(生化学)らは光合成において光エネルギーを利用し、水を分解して酸素を発生させる反応の謎を解明した。人工光合成の実現につながる発見。大阪市立大学の神谷信夫教授との共同研究で、英科学誌「ネイチャー」電子版に掲載。(4月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の山中寿朗准教授(地球化学)らのグループが、鹿児島湾の海底でレアメタル(希少金属)の一種「アンチモン」を多く含む鉱床を確認した。推定埋蔵量は90万トンで約25万トンの金も含まれるとみられる。(4月・定例記者発表)

■資源植物科学研究科の馬建鋒教授(植物栄養学)は毒性の強い重金属・カドミウムを無毒化する植物の遺伝子「TCHMA3」を南仏産のグンバイナスナで特定した。汚染土壌の浄化へ応用が期待される。The Plant Journalに掲載。(4月・定例記者発表)

■岡山大病院は、先天性の重い心臓疾患のある1歳の女児に、自身の心臓から取り出して培養した幹細胞を移植し、心筋を再生させる治療に成功。心臓幹細胞を使った小児への治療は世界初。移植1カ月後には心臓のポンプ機能が約10%向上した。治療は佐野俊二・心臓血管外科教授が細胞を採取、王英正・新医療研究開発センター教授が培養後、大月審一・小児循環器科教授が心臓カテーテルで移植した。(5月・臨時記者発表)

■埋蔵文化財調査研究センターの山本悦世教授と光本順助教授らは、医・歯学部構内の鹿田遺跡で2007年に出土した木製品(直径6.4センチ、高さ4.5センチ)を11世紀中期(平安時代後半)の猫形の操り人形と確認。動物操り人形としては国内最古とみられ、「傀儡(くぐい)」と呼ばれる芸能民が使っていた可能性が高いという。(5月・定例記者発表)



■大学院教育学研究科の寺澤孝文教授は、自宅にインターネット環境や情報端末のない子どもに対して、紙教材とインターネットを融合させて双方の個別学習支援を行う遠隔支援システムを開発した。(5月・定例記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の上原孝教授(神経薬理学)らは細胞内の一酸化窒素(NO)の濃度が、脳梗塞の発症時などに神経細胞生死の運命を決める一因であることを世界で初めて突き止めた。米科学アカデミー紀要電子版に掲載。(6月・臨時記者発表)

編集後記

本

年4月より「いちよう並木」の編集をお手伝いすることになりました。当初の話では本当にお手伝いで良かったのだと、企画会議で気楽に案を話していたら、本号の学長対談のインタビューを仰せつかってしまいました。いわゆる大学執行部の先生の考えというのは、これまでは会議決定事項の通達などから類推するしかなかったので、直接お話を伺うのが楽しかったです。そのお話は森田ビジョンに沿って進めましたが、ビジョンに示されたそれぞれのキーワードについて、具体的な内容だけでなく、森田学長の思いも自身の体験談を交えてお話しただけでした。その抜粋が今号のメイン記事になっていますが、いわゆる紙面の都合というところで、私が感じた学長像があまり伝わっていない気がするのが残念です。インタビューの最後、グラウンドデザインができたからお話をいただきたーとお話ししたので、近いうちに今回お伝え出来なかった学長像を紹介したいと思っています。

工学部教授 ● 後藤 邦彰

こ

のたび「いちよう並木」のリニューアルに合わせて、副編集長をお引き受けすることになりました。2年前に岡山大学のホームページのリニューアル作業を担当させていただきましたが、それが縁で今回も大役のご依頼をいただきました。岡山大学に着任して3年が経ち、大学の優れた教育研究活動、地域貢献の成果をいろいろ知ることができましたが、残念なことに相応の評価を得られていないようにも感じております。森田新学長がインタビューで語られているように、みなさんが自慢に思い、誇りにするような大学になるには、大学の優れた活動や成果を学内外の多くの方に知ってもらうことが大切と感ずます。その一助となるように、編集長の後藤先生や企画・広報課のスタッフの方々とともに、オシャレでより充実した「いちよう並木」になることを目指します。ご協力とご支援のほどよろしくお願ひいたします。

教育学部准教授 ● 林 創

postscript
by the editor

岡山大学生協同組合

岡山大学生協は大学のロゴマーク入りの文房具や、農学部で収穫した米を原料にした酒、菓子などオリジナルグッズの開発に力を入れている。グッズは大学の知名度アップを目的に年数品ずつ考案。学内の福利厚生施設（ビーチユニオン、マスカットユニオン、ブックストア、コジカショップ）で販売している。

商品はロゴマーク入りのノートやレポート用紙、クリアファイル、ボールペンなどの文房具、農学部の農場で取れた米や梅などを使用し、大学学生歌の一節を引用して名付けられた「おお岡山」シリーズのアルコールドリンクなど約50種類。「コジカショップ（岡山市北区鹿田町）では限定デザインのクリアファイルと手提げ紙袋を取り扱っている。

売れ筋は米粉入りの「岡山大学クッキー」（10枚入り1箱700円）。小判型のクッキーには、20年以上前、大学が管理する演習林の木に目印として押していた「岡大」の焼き印を「復刻」。さくさくとした食感と岡大らしさが人気を集め、1日で600箱以上を売り上げることもある看板商品だ。

「おみやげ用には、オリジナル包装紙でラッピングもできる。気軽に声を掛けて」と売り場担当者。現在、学生・教職員の意見を聞きながら学生委員会と生協職員が商品の企画会議を重ねており、新商品のお目見えが待ち遠しい。

UNIV.
CO-OP



おみやげで岡大PR!



岡大生協で
取り扱っている
主な商品
を紹介!します

▽岡山大学クッキー700 円

▽クリアファイル73 円
▽B5 ノート105 円
▽合格鉛筆210 円
▽名刺カードケース500 円
▽フェイスタオル525 円
▽折りたたみ傘980 円

▽「おお岡山」
本醸造酒1050 円
純米吟醸、本格焼酎1575 円
梅酒1260 円

広告

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

<http://www.okayama-u.ac.jp>